

切り口を  
左右内側に立て  
神様の居場所を  
つくる



松

永遠の命を  
象徴する  
神様が宿る木



竹

長寿や  
生命力の  
象徴

梅  
梅の花を  
かたどった  
結び目



# 門松

kado matsu

青々とした立ち姿を見るだけで、いやがうえにも「新しい年がやってくるなあ」と期待が高まる正月飾り・門松。けれど「何のために?」「飾るのはいつからいつまで?」「誰がどうやって作ってる?」等々、縁起ものということ以外は門松について知らない人が多いのでは?令和8年、良い一年を迎えるため改めておさらいしましょう。



伝統的な自然の素材にこだわった門松づくりを続ける水野さん親子。SNS等で自作を見かけるたび、「大変でも求められている」とやりがいを感じるそう

12月13日以降の  
大安に立て  
1月7日までの  
松の内まで飾る

松は千歳を契り  
竹は万代を契る

門松は竹や松のほか、新春を告げる梅の花などがあしらわれますが、そもそもは「門」に立てる「松」が起り。冬枯れしない常緑の松は、不老長寿の象徴として年神様が宿る木とみなされていました。ちなみに年神様とはご先祖のことで、正月にお迎えすれば新たな年に幸福をもたらしてくれるとされています。門口の松は年神様(ご先祖様)が宿る場所であり、家まで迷わずに来ていただくための目印でもありました。

この風習は平安時代に始まり、鎌倉時代に成長や繁栄をあらわす竹が加わって現在の型につながったといわれています。

門松を立てるのは、東日本では一般的に正月事始めの12月13日から松の内の1月7日まで(関西では小正月15日まで)。かつてのように門松を玄関先に飾る家庭はあまり見られなくなりましたが、それでも年末が近づくと、店舗やビル、旅館の玄関先、神社やお寺の門口には立派な門松が登場します。

新しい一年もまた  
幸せに過ごせますように

石川町で50年三代にわたり門松づくりを行う水野さん宅では、11月から材料の準備が始まります。松葉や土台に使う稲わらは専門の業者から仕入れますが、竹取りは近隣の山に入り、一本一本自分で切り出します。一年を祝う大切な縁起もの。竹も松も新鮮で若々しく傷や傷みのないものにこだわっています。作るのは毎年約1500対。竹取りだけで一か月を要します。そして12月の声を聞くと本格的に製作がスタート。家に地元の人たちの手をあわせて総勢20名強が、寒さが深まるなか手際よく作業を進めます。

「基本モチーフは松竹梅。でも地域や作り手で形は違うアレンジで見た目も変わる。うちのは15段きっちり詰まったコモ巻きが特徴なんです。過去には特注で5mを超えるものを手掛けたこともあるのですが、毎年ほぼ100%市場に出荷するため、最終的にどこに行きつくかは定かではないそう。それでもネットを通して、有名どころでは柴又の帝釈天や増上寺などの門松を目にするのがあり、「うちの門松だ」と気づくことも多いとか。「門松はコロナ禍でも需要が減りませんでした。幸せになりたいという人の願いが形になった縁起ものだから、多くの人に関心を持ってほしい」と水野さん。その想いは3代目の息子さんに受け継がれていきます。



竹は2~3年生で、外皮は青々と鮮やか。  
内皮はつやのある乳白色



丁寧に土を突き、  
竹をしっかりと垂直に



松の枝は竹を囲むように  
バランスよく



奇数は縁起が良い数とされ、  
7・5・3の比率で3本の竹を立てる





切り口を  
左右内側に立て  
神様の居場所を  
つくる



松

永遠の命を  
象徴する  
神様が宿る木



竹

長寿や  
生命力の  
象徴

梅  
梅の花を  
かたどった  
結び目



# 門松

kado matsu

青々とした立ち姿を見るだけで、いやがうえにも「新しい年がやってくるなあ」と期待感が高まる正月飾り・門松。けれど「何のために?」「飾るのはいつからいつまで?」「誰がどうやって作ってる?」等々、縁起ものということ以外は門松について知らない人が多いのでは?令和8年、良い一年を迎えるため改めておさらいしましょう。



伝統的な自然の素材にこだわった門松づくりを続ける水野さん親子。SNS等で自作を見かけるたび、「大変でも求められている」とやりがいを感じるそう

12月13日以降の  
大安に立て  
1月7日までの  
松の内まで飾る

松は千歳を契り  
竹は万代を契る

門松は竹や松のほか、新春を告げる梅の花などがあしらわれますが、そもそもは「門」に立てる「松」が起り。冬枯れしない常緑の松は、不老長寿の象徴として年神様が宿る木とみなされていました。ちなみに年神様とはご先祖のことで、正月にお迎えすれば新たな年に幸福をもたらしてくれるとされています。門口の松は年神様(ご先祖様)が宿る場所であり、家まで迷わずに来ていただくための目印でもありました。

この風習は平安時代に始まり、鎌倉時代に成長や繁栄をあらわす竹が加わって現在の型につながったといわれています。

門松を立てるのは、東日本では一般的に正月事始めの12月13日から松の内の1月7日まで(関西では小正月15日まで)。かつてのように門松を玄関先に飾る家庭はあまり見られなくなりましたが、それでも年末が近づくと、店舗やビル、旅館の玄関先、神社やお寺の門口には立派な門松が登場します。

新しい一年もまた  
幸せに過ごせますように

石川町で50年三代にわたり門松づくりを行う水野さん宅では、11月から材料の準備が始まります。松葉や土台に使う稲わらは専門の業者から仕入れますが、竹取りは近隣の山に入り、一本一本自分で切り出します。一年を祝う大切な縁起もの。竹も松も新鮮で若々しく傷や傷みのないものにこだわっています。作るのは毎年約1500対。竹取りだけで一か月を要します。そして12月の声を聞くと本格的に製作がスタート。家に地元の人たちの手をあわせて総勢20名強が、寒さが深まるなか手際よく作業を進めます。

「基本モチーフは松竹梅。でも地域や作り手で形は違うアレンジで見た目も変わる。うちのは15段きっちり詰まったコモ巻きが特徴なんです。過去には特注で5mを超えるものを手掛けたこともあるのですが、毎年ほぼ100%市場に出荷するため、最終的にどこに行きつくかは定かではないそう。それでもネットを通して、有名どころでは柴又の帝釈天や増上寺などの門松を目にするのがあり、「うちの門松だ」と気づくことも多いとか。「門松はコロナ禍でも需要が減りませんでした。幸せになりたいという人の願いが形になった縁起ものだから、多くの人に関心を持ってほしい」と水野さん。その想いは3代目の息子さんに受け継がれていきます。



竹は2~3年生で、外皮は青々と鮮やか。  
内皮はつやのある乳白色



丁寧に土を突き、  
竹をしっかりと垂直に



松の枝は竹を囲むように  
バランスよく



奇数は縁起が良い数とされ、  
7・5・3の比率で3本の竹を立てる

